

総合計画体系	政策名	I 市民と行政の協働によるまちづくり 《住民自治》	施策主管課	地域振興課
	施策名	2 定住・交流の推進	施策統括課長	小川 忍
			関係課	政策推進課,長寿障がい福祉課,子育て支援課,産業推進課,農林振興課,商工観光課,農業委員会事務局,業務管理課,教育総務課,自治振興課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		A	B			実績	実績	実績			
目的	市外の人	A	参考指標) ふるさと会会員数	人	実績	1,828	1,828	1,828			
		B	参考指標) 定住相談件数(市内外の計)	件	実績	148	113	178			
		C									
		D									
目的	A)雲南市に移住してもらおう。 B)雲南市を好きになってもらい、まちづくりを応援してもらおう。	成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		A	転入者人口	人	実績	1,036	951	796			
		B	市外から移住した世帯数・人数(定住推進員が相談等を受けたもの)	世帯(人)	実績	14(32)	11(24)	22(55)			
		C	市民以外のふるさと納税者数(寄付による政策選択寄付)	人	実績	32	21	85			
成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)		A-1)移住とは転入のことである。A-2)定住推進員を通じた市外からの移住は、住民票上の移住ではなく、実態を正確に把握できる。(A-1,2で相互に補完) B)まちづくりを応援する人が増えれば、ふるさと納税者数(寄付による政策選択寄付)も増えたと考えた。									
成果指標の測定企画(実績値の把握方法)		A-1)鳥根県統計調査課「鳥根県の人口移動と推計人口」 A-2)地域振興課で把握 B)政策推進課で把握									
目標設定とその根拠(基本計画策定時)		A)転入者人口は、過去3年間の転出者人口の平均約1200人と同程度の転入者を確保することとした。B)移住者は、近年ほぼ同程度であり、今後の大きな変化要因もないことから、成行値を現状程度とする。目標値は、定住策をより積極的に推進していくことで、H26目標を20世帯、40人とする。C)成行値は、ほぼ同程度で推移すると推測する。目標値は、雲南市を応援してもらうための取り組みを、継続、強化していくことで、まちづくり応援団の確保に努め、毎年35人を目標とする。									

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 移住のための情報発信	市外の人	雲南市の魅力を知ってもらおう。	定住サイト「ほっこり雲南」アクセス件数	件	実績	—	—	H23年度サイトリニューアルのため、H24年度以降のアクセス件数を指標とする。			
② 移住のための情報提供・相談の充実	雲南市に関心がある市外の人	雲南市へ移住する気持ちをもってもらう。	定住相談件数	件	実績	148	113	178			
③ 交流の促進	雲南市に関心がある市外の人	雲南市に来てもらう。	ふるさと納税者数、観光光込客数	人 万人	実績	32 88.4	21 93.6	85 95.0			
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
① 役割分担	●移住者の周辺住民は、移住者に対し地域情報の提供、地域活動への参加促進を図り、移住者が定住しやすい、住みよい環境づくりに努めます。また、空家があれば提供していきます。 ●移住した人は、自治会への加入、地域活動への参加などにより近隣住民との良好な関係づくりに努める。	●地域との連携、定住者からの意見聴取などにより、移住者が住みよい環境をつくります。 ●雲南市を好きになり応援してもらおう仕組みをつくります。 ●移住希望者に地域・生活環境及び空家の情報提供を行う。
② 状況変化	A)施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○ふるさと会では、若者の新規加入者が少なく、世帯人が固定化される傾向があり、今後の会運営への影響が懸念される。○定住相談件数は増加しており、東日本大震災の影響もあって、今後も移住への関心や希望者が、現状以上にあるものと推測される。○移住者からの就農希望が多く、また、スローライフ思考(田舎暮らし思考)の高まりがある。	B)この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○小規模高齢化集落などでは、後継者確保のため、地域外からの移住者を求める意見がある。 ○人口減少・少子化及び結婚問題の対策として、移住者受入れ促進への関心が高い。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)		背景・要因
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。		○他市町との比較数値が少ないため比較しづらいが、実質的な人口動態では転入者数の減少が見られるが、定住推進員関わった転入者は、H21からH23の比較で、ほぼ倍増しているため、どちらかと言えば高い水準であると判断した。 ○県外からのふるさと納税の申込件数は実績数値にある通り85件と、平成20年度から毎年度およそ20人~30人の実績から、飛躍的に増加した。H23の県下実績においても、1位出雲市、2位浜田市に次ぐ第3位という結果(金額)から、他市町と比較して水準は高いものとする。

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《2 定住・交流の推進》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○社会動態(転入者数全体)の減少傾向を細かく分析する余地は残るが、定住推進員のスキルアップや定住関連イベントへの参加等により、実際の移住・定住につながった件数が増加した。 ○市外からのふるさと納税者は、ふるさと会を通じた取り組みにより大きく増加した。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○社会動態上の増につながらないジレンマは残るが、定住推進員のスキルアップや定住関連イベントへの参加等により、実際の移住につながった件数が増加し目標を達成したと考える。 ○市外からのふるさと納税者は、ふるさと会を通じた取り組みにより大きく増加し、目標を達成した。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 移住のための情報発信	・定住相談を積極的に取り組んだことが、移住人口の拡大につながった。
② 移住のための情報提供・相談の充実	・定住のための空き家確保について、市内全域の調査を実施し、85件の空き家登録を行った。
③ 交流の促進	・ふるさと会事業を通じ、市外からのふるさと納税の拡大に取り組んだこともあり、納税者数はH22年度に比べ64人の増加となった。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)	
施策	○定住施策による成果は向上したが、社会動態の増に直接結び付いていないため、今後とも、より雲南市の魅力を感じてもらえる、特徴のある施策の展開が必要である。	○雲南市の特色ある情報発信や事業実施を図っていく。	
基本事業	① 移住のための情報発信	○他の自治体とは違う、雲南市の特色を前面に出した情報発信が必要である。 ○効果的なイベントへの参加が必要である。	○H23年度にリニューアルした定住推進協議会HP、県定住財団HP等を効果的、積極的に活用していく。 ○UIターン希望者が多く参加されるイベントに積極的に参加していく。
	② 移住のための情報提供・相談の充実	○市内全域の空き家情報を収集し、迅速に的確な情報を提供できるようにする必要がある。 ○定住推進員の継続的な確保が必要である。	○H23年度に行った空き家調査事業の成果を活かし、移住者の増加につなげていく。○定住推進員、H24年度新規に設置した移住支援コーディネーターによる活動を充実していく。○UIターン促進空き家リフォーム事業や就農支援事業等の特徴ある定住策を実施していく。
	③ 交流の促進	○イベントの開催により、雲南市の魅力を感じてもらう必要がある。 ○ふるさと納税者数を維持していく必要がある。 ○市内の交流施設を有効に活用し、“婚活ツ”活動を進めていく必要がある。	○田舎暮らし体験ツアーなどを通じて、雲南市ファンの増加に努めていく。 ○引き続きふるさと納税者の確保に努めていく。 ○結婚相談員のスキルアップを図る。
	④		
	⑤		